

50th Mitsutoshi Tanaka

田中光俊 ギターリサイタル
Guitar Recital 2026

プログラム

プレリュード、シャコンヌ
バッハ

大聖堂
バリオス

大序曲
ジュリアーニ

魔笛の主題による変奏曲
ソル

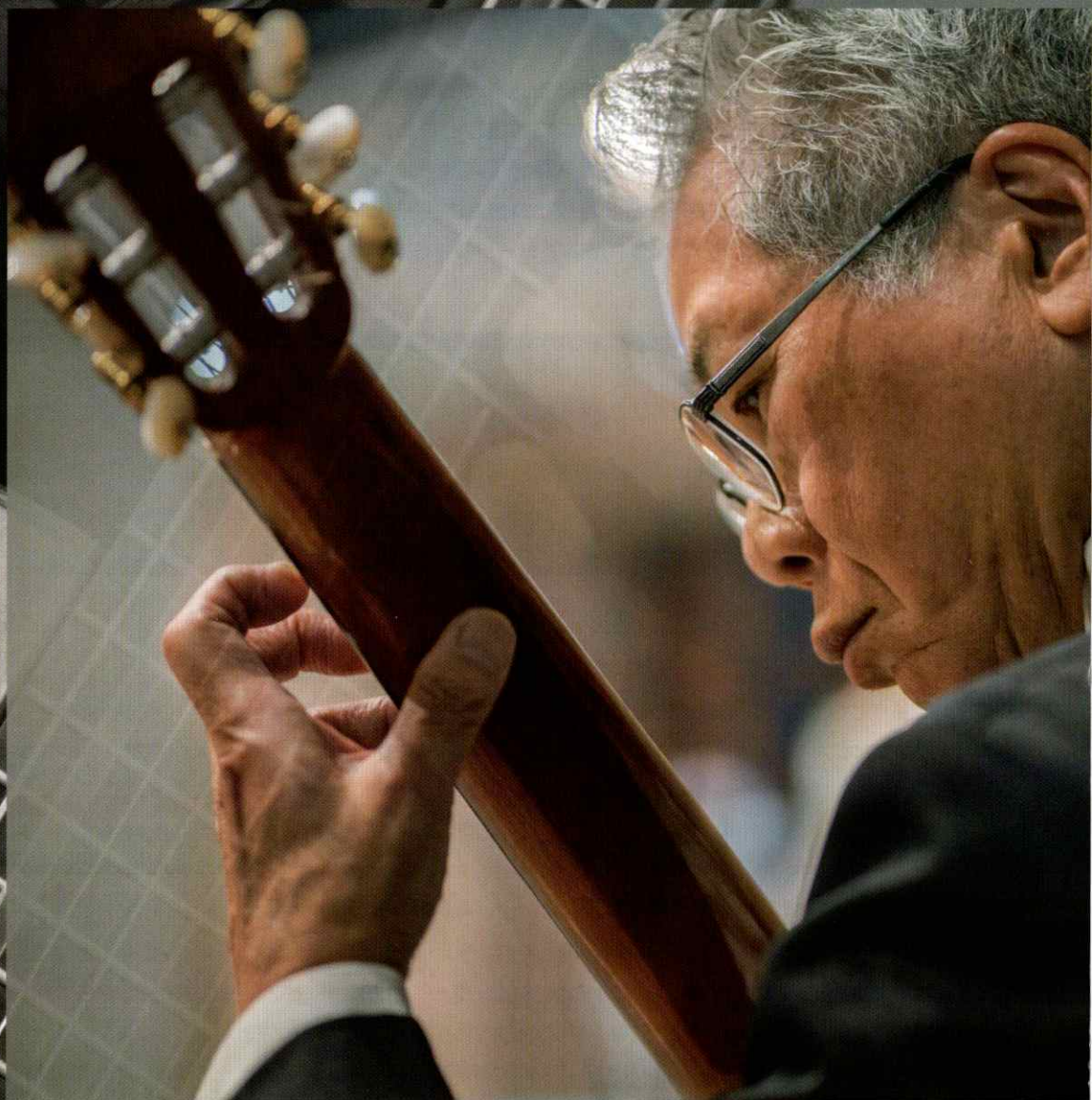
ファンダンゴ
ロドリゴ

アランプラの思い
カプリチオアラベ
タレガ

北海道民謡による幻想曲から
プレリュード、アリオーソ
トッカータ
二橋潤一

天使の死
ブエノスアイレスの春
ピアソラ

アストリアス
グラナダ
アルベニス



帯広：十勝プラザレインボーホール

10/7 (Wed)

入場料：2,000円

お問合せ：0155-56-4146 田中

開場:18:30 開演:19:00

札幌：ザ・ルーテルホール

10/17 (Sat)

入場料：一般 2,500円 学生1,000円 ペア4,000円

チケット：札幌市民交流プラザチケットセンター・道新プレイガイド

開場:18:00 開演:18:30

主催：コンパネロG 後援：札幌市・札幌市教育委員会 お問合せ：011-664-4953 武田

田中光俊 プロ活動50 周年

田中はこの50年間、毎年のリサイタルにあたり、それまで演奏したことのない新しい曲を発掘する事に挑戦し続けてきた。中にはスペインの図書館で見つけてきた曲を弾いたり、インターネット上にも情報がほとんど見当たらない曲を探し出して来た。これは本人がリサイタルにあたり自分に課した課題だ。そして、これは田中光俊リサイタルの大きな特色のひとつでもある。結果、北海道はもとより、日本初演の曲も少なくないのではと思う。

田中は常々、楽譜を非常に大事にしている。本人も周囲に話しているし、その演奏から出てくるものにも感じとれる。しかし、その演奏を聴くとき逆に自身の演奏を「楽譜」の中に収めようとはせず、その楽譜から解き放たれ音楽の世界を提示してくれる。それが毎年の田中光俊ギターリサイタルの、醍醐味でもある。

プロフィール

1950年帯広に生まれる。千葉敏生、松田晃演、オスカー・カセレス、ホセ・トーマス、アルマンド・マロスの各氏に師事する。

北海道を中心とした演奏のほか、スペインでマスタークラスと演奏会を開催するなど、幅広く活動している。

札幌と帯広において毎年開催しているリサイタルでは毎回独自の視点からテーマを設定し、新たなプログラムを発表してきた。

現代ギター社から発売されたCD「カルメン」は歌曲や民謡、オペラアリアなど、自身の編曲による演奏を収録し、各方面から高い評価を受ける。



プログラムについて

田中は、毎年新曲に挑戦してきた。プログラムレパートリーは、札幌だけに限ってもここ30年で延べ360曲を超える。（もちろん再演もあるが過半数は初めて弾く曲だ）それが50年で、しかも地元帯広をはじめ全道各地のコンサートを含めたら一体何曲になることか。

その田中が、今年は「田中ファン」のリクエストに応え、馴染みの、そして田中自身も好きなレパートリーを並べてきた。アマチュアギタリストが一度は弾いてみたいと思う曲ばかりなので、今更解説の必要もないだろうが、数曲だけざっとおさらいをしておこう。

J.S.バッハが類まれな天才性を発揮した作品の一つに「ヴァイオリン二重奏の聖典」といわれるほどの名曲「無伴奏ヴァイオリンソナタ&パルティータ」全6曲がある。その中のパルティータ第2番の終曲シャコンヌは、セゴビアが1935年初演して以来、ギターの重要なレパートリーとなった。近年はセゴビアの編曲（和声や対旋律等を付加したもの）とは違うオリジナルに近い編曲で演奏をするギタリストが増えてきたが、田中もヴァイオリン原譜を元に編曲し演奏している。常日頃同じ曲を演奏する時は『もう一度勉強しようと思う』と言う田中だが、今回はどんなシャコンヌを聴かせてくれるだろうか。

ギターの隆盛期の一つは古典時代だが、その代表的な作曲家・演奏家がソルとジュリアーニである。ソルの代表曲の一つが、モーツァルト晩年の名作オペラ「魔笛」の第1幕19場で仇役のムーア人たちが歌う「おお、なんと素敵な音だ」を主題とした「魔笛の主題による変奏

曲」である。ホ短調の序奏に明るく軽快なホ長調の主題が続く。5つの変奏と華麗なコーダからなり、どの部分もギターの性能・持ち味を熟知した筆致で書かれ、模範的な変奏曲となっている。ジュリアーニの「大序曲」は、リクエストではなく元々田中が弾く予定をしていた曲だ。田中は以前からジュリアーニが好きだと公言しており、昨年もロッシニアーナ第4番を弾いてロッシニアーナ全6曲を弾き切ったばかりである。ソルの優美と洗練に対してジュリアーニの曲は豪放で歌心とヴィルティオージに富んでいる。『今時、古典特にジュリアーニを弾く人は少ないが、飾らず骨太に古典を演奏してくれる人』『男性的だが計算された演奏をする人』『ギターの職人』とは私が耳にした田中評だが、高速なオクターブ奏法や怒涛のアルペジオなど技巧の限りを尽くした華やかな名曲「大序曲」の豪快かつ緻密な演奏に期待したい。

田中が現代曲を弾く時いつもこう口にする。『弾く人がいなければ作曲家が曲を作ってくれなくなるから自分は現代曲を取り上げるのだ』と。言葉通り沢山の現代曲を演奏してきたが、特に北海道在住の二橋潤一の曲は積極的に演奏してきた。記憶に新しいところでは、2023年の「ギターのための6つの前奏曲」の初演がある。（この曲は田中光俊に献呈されている）今回演奏される「北海道民謡による幻想曲」は田中によって2003年釧路において初演されている。

（解説：武田隆吉）



田中光俊公式HP



facebook



Instagram